

川越時間旅行 1

市立博物館 222-5399

旧山崎家別邸の建物と庭園

大正14年(1925)に竣工した旧山崎家別邸の建物と庭園は、建築家・保岡勝也が設計しました。

建物は、和館と洋館の異なるスタイルが並んで建っていることから、明治時代に流行した和洋館並列型の住宅であることが分かります。建物のデザインは洋館より和館に比重が置かれ、保岡の関心が和風建築にあったことがうかがえます。

庭園は、歩いて鑑賞するより和室からの眺望を重視。和室から近い場所に手水鉢と灯籠を置き奥に茶室を配置して、それらをつなぐように飛石などが置かれています。家族が集い、くつろぐ和室からの眺めを考慮した庭造りになっています。

この別邸の大きな特徴は、この時代にはまだ一般的ではなかった子ども部屋が設けられていることです。また、現在は見ることはできませんが、子ども部屋の横には、子どもが遊べる芝生の庭や花壇、温室がありました。今でも別邸の東側には、



和室から見た庭。写真右が手水鉢と灯籠、左の建物が茶室

花壇があつたと思われる囲いの跡があります。

家族一人ひとりの生活と実用性を重視した保岡の設計思想を、垣間見ることができます。

公開日：土・日曜日、祝日(年末年始を除く)

時間：午前10時～午後4時
*建物内には入れません。



みつば

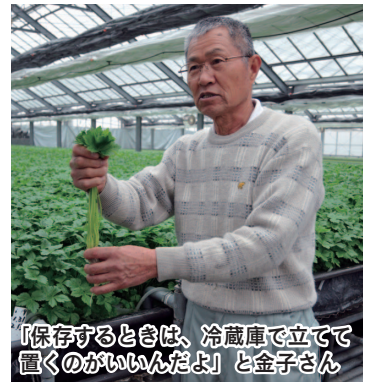
東アジアに広く自生するセリ科の野菜です。日本でも古くから食され、1本の茎に3枚ずつ葉が付くことからこの名になったそうです。シャキシャキとした歯ざわりと爽やかな香りで、料理を引き立てる名脇役です。

金子智一さん(仙波町4丁目・72歳)は、昭和50年から栽培を始め、現在県内で一番の生産量を誇ります。水耕栽培を行い生産効率を上げるなどの優れた栽培方法が評



かね ことしかず
金子智一さん(仙波町4丁目・72歳)は、昭和

価され、平成3年には農林水産大臣賞を受賞しました。みつばの生育には水の管理が重要。そのため、水の温度や循環には特に気を付けているそうです。県内スーパーなどに「小江戸みつば」という名前で出荷しています。「天ぷらやごまあえにするとおいしいし、ラーメンにも合います」と金子さん。ビタミン類、カリウムが多く含まれるみつば。いろいろな料理に使ってみてはいかがでしょうか。



表紙の写真

川越城本丸御殿では、^{かみしち} 袴姿でお出迎え！ この催しは10月まで、月3回、午前10時～午後4時に行われます。今後の日程は、川越城本丸御殿ホームページでお知らせします。普段見ることのない装いに、一緒に写真を撮る観光客の姿もありました。



桜 前線が例年よりゆっくりやってきた今年。桜の開花が待ち望まれる中、3月31日、小江戸川越春まつりが始まりました。初日はあいにくの天気でしたが、オープニングでは民踊流しや太鼓の演奏、高校生のマーチングバンドが一番街を華やかに彩りました。旧山崎家別邸で行われた茶席には多くの人が訪れ、普段は入ることのできない和室で茶を楽しみました。小江戸川越春まつりは、5月6日(日)まで行われます。

編集後記

どんぐり

広報川越 1268

発行日/平成24年4月10日(毎月10日・25日発行)
発行/川越市 〒350-8601埼玉県川越市元町1丁目3-1 <http://www.city.kawagoe.saitama.jp/>
編集/広報室 ☎049-224-8811(代表) ☎049-225-2171
印刷/徇新広社